

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	平成 29 年度第 1 回松阪市総合教育会議
2. 開 催 日 時	平成 29 年 8 月 31 日 (木) 15 時 30 分～16 時 50 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 第 2 分館 教育委員会室
4. 出席者氏名	出席委員 竹上真人市長、山川隆志教育長職務代理者、鷺尾節子教育委員、竹内一教育委員、長島彩子教育委員、中田雅喜教育長 事務局 加藤企画振興部長、刀根企画振興部経営企画課長、川上経営企画課政策経営係長、松名瀬教育委員会事務局長、山本教育政策・地域連携統括マネージャー、青木教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱、深田図書館改革推進担当参事兼生涯学習課長事務取扱、山口スポーツ担当参事兼スポーツ課長事務取扱、有瀧学校教育課長、萬濃学校支援課長、中村北部教育事務所長、高尾西部教育事務所長、松林教育政策担当主幹、橋本スポーツ課スポーツ振興担当主幹兼スポーツ振興係長事務取扱、齋藤スポーツ課スポーツ振興係主任、野呂飯南地域振興局長、廣本飯高地域振興局長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	4 人 (内、報道関係 3 社 4 人)
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・協議事項

- 1) 県立飯南高等学校の活性化について
- 2) フルマラソンの開催について
- 3) 市民大学について

◎内容録は別添

平成 29 年度 第 1 回松阪市総合教育会議議事録

開催日時 平成 29 年 8 月 31 日（木） 15 時 30 分～16 時 50 分

開催場所 松阪市役所 第 2 分館 教育委員会室

出席委員 竹上真人市長、山川隆志教育長職務代理者、鷺尾節子教育委員、竹内一教育委員、長島彩子教育委員、中田雅喜教育長

事務局 加藤企画振興部長、刀根企画振興部経営企画課長、川上経営企画課政策経営係長、松名瀬教育委員会事務局長、山本教育政策・地域連携統括マネージャー、青木教育総務担当参事兼教育総務課長事務取扱、深田図書館改革推進担当参事兼生涯学習課長事務取扱、山口スポーツ担当参事兼スポーツ課長事務取扱、有瀧学校教育課長、萬濃学校支援課長、中村北部教育事務所長、高尾西部教育事務所長、松林教育政策担当主幹、橋本スポーツ課スポーツ振興担当主幹兼スポーツ振興係長事務取扱、齋藤スポーツ課スポーツ振興係主任、野呂飯南地域振興局長、廣本飯高地域振興局長

傍聴者 4 人（内、報道関係 3 社 4 人）

1. 市長あいさつ

竹上市長あいさつ

お忙しい中、お集まりをいただきありがとうございます。ほぼ 1 年ぶりの開催となり、本年度初めての総合教育会議となります。よろしく申し上げます。

昨年は、予算をつける立場として、エアコンの設置やトイレの洋式化について、また、教育環境についてご意見をいただきました。本日は、地域全体としての教育という観点から、県立飯南高校の活性化やフルマラソン、市民大学についてご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

【松阪市総合教育会議設置要綱第 4 条に基づき、竹上市長が議長となり進行】

市長)

では、事項書に沿って会議を進めてまいります。松阪市総合教育会議設置要綱では、会議は公開することとなっておりますが、非公開情報などが含まれる場合には、非公開とすることもできます。

本日は、事項書にもあります 3 件についてご協議いただく予定であります。

非公開情報が含まれる案件ではございませんので、本日の会議は公開とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

1. 県立飯南高等学校の活性化について

市長)

では、協議事項1の県立飯南高等学校の活性化についてですが、去る8月6日に開催されました知事との1対1対談にて、直接知事に要望させていただいたところです。

本日は、教育委員の皆さんからも、この件についてご意見等をいただきたいと思います。では、事務局より説明をお願いします。

【飯南地域振興局、学校支援課より県立飯南高等学校の活性化について説明】

市長)

事務局より説明がありましたが、皆さんもご承知のとおり、旧飯南郡は松阪市の半分の面積を持ちながら、人口減少が厳しく、過疎地の指定を受けている地域である。その中に、飯南高校がありますが、飯南高校は旧飯南郡にとっては地域の光のような存在であると思っている。今回、県が発表した活性化計画では、今年から3年間活性化の取組を行い、その後2年連続で1学級規模となり、入学希望者が定員の3分に2に満たない場合は統廃合を検討するとしている。小規模校について、考えていきたいというのが県の方針である。市としては、それを何とかしていきたいと考えている。旧飯南郡で卒業するのは80人弱。今、通っている生徒の3割程度しか地元の生徒はいない。キャリア教育を生かすコミュニティ・スクールを考えていきたい。飯南高校応援隊を地域全体で作りたいが、これだけでは光が当たらないので、通いたいと思える学校にするのはどうすればいいのか、ご意見をいただければと思う。

委員)

現在、飯南高校ではどのように動いているのか、参考に教えてほしい。

教育長)

活性化協議会においては、事務局が中心となって現状をよくするために、どうすれば地域と一緒に飯南高校が活性化していくのか、その手立てを多くの方から意見を聞きたいというスタンスで動いている。飯南高校だけでなく、地域や小中学校、行政が一緒になって協力してほしいということで協議会が設立されている。

委員)

飯南高校が意識を持って取り組まなければならない部分があると思う。行きたい学校というより、行ける学校になっている。卒業しても誇りを持った生徒が少ないと思う。特色を出していく必要があり、地域や人材、自然の力を活性化につなげていくことが大事だと感じる。

飯南高校応援団として、地域が動いてもらっているが、強いリーダーシップを取れる人を育成する必要があると思う。

市長)

地域が応援隊にならないと難しいと感じている。それには、飯南高校に行きたいと思う仕組みが必要ではないか。飯南ゼミをやっているが、もっと宣伝する必要性を感じている。

委員)

飯南地域の教育力の高さを感じるが、コミュニティ・スクールは全国で導入されている。義務教育課程におけるコミュニティ・スクールと、高校のコミュニティ・スクールでは若干の違いがあるのではないか。飯南高校出身の方がリーダーシップを取ると良いのではないか。学校を中心としたコミュニティが生まれてくると良いと思う。

委員)

女の子が行きたい学校になればいいと思う。女子に魅力のある学科ができれば、進学してくれるのではないか。英語も必要で、グローバル社会と言われる中で英語に特化してもいいと思う。

市長)

近隣の学校との連携が必要だと感じている。保育士をめざす生徒に対して、近隣大学と連携し、保育士をめざすなら飯南高校でという流れを作りたい。飯南地域にはCIRという英語職員、国際交流員がいる。英語教育を充実させることは可能だと考えている。

教育長)

介護福祉士や保育士は、なりたい職業の上位にくる。総合学科かつ介護福祉系列があるので、特化して大学と連携していくことで、行きたい学校の要因になるのではないか。

英語については、特認校制度にすることで英語教育を取り入れやすくなる。県教育委員会と協働しながら検討しているところである。

委員)

飯南地域の方が飯南高校を残したいのはわかるが、学校は学生のものであって、地域のものではない。感傷的に高校を大切に思う気持ちもわかるが、学生にとって選択肢を決める大事な時期である。飯南高校でなければできない特徴が必要で、特徴がでてくれば県外からでも生徒はやってくる。県外から来た生徒を地域の人が大事にする。その結果で地域が良くなることが大切だと思う。

英語に特化することや、介護士や保育士などを養成してもいい。すごく良い環境なので芸術分野の特徴があっても良いのではないかな。

市長)

上手に発信できていないが、飯南高校は就職率が高い。大手企業にも就職している。そのことを上手に発信できていない状況にある。良い就職環境にあると思う。

何か特色がほしいと感じているが、どこに重点を置くのか、プラスワンを考えていけば行ってみたい高校になると思っている。

市内では1学年は1500人程度。飯南高校にとってはがんばりどころで、行政としても活性化協議会の枠組みの中で協力できればと思っている。

委員)

飯南地域にとっては、介護福祉の分野が必要であるが、卒業して松阪市に就職するなどの条件をつけて奨学金を出すなど、市内に勤めてもらえるような支援もあればいいのではないかな。

市長)

今年から保育士の奨学金制度を検討している。来春から運用できるように、制度設計を進めているところである。

介護福祉については、飯高西中学校のグラウンドを無償で貸し出し、福祉施設を誘致することで働く場所になればと思っている。

2. フルマラソンの開催について

市長)

では、次の事項に移ります。

続きまして、協議事項2のフルマラソンの開催についてですが、この件についても知事との1対1対談にて、直接知事に要望させていただいたところです。

先ほどの件と同様にご意見をいただければと思います。
では、事務局より説明をお願いします。

【スポーツ振興課よりフルマラソンの開催について説明】

市長)

ご議論いただきたいのは、いろんな要望もありますし、具体的なことを考えていく中で、松阪らしさはどこにあるのか、沿道で応援してもらおう方、全国から参加いただく方にどこを見せていけばいいのか、そういった内容のご意見をいただきたい。

委員)

シティマラソンがハーフで開催されている。山下公園から射和地区を走っているが、あれがシティマラソンと呼べるのか。シティマラソンであれば、市街地を走るコースが良いと思う。フルマラソンの前に、プレ大会で市街地コースを走ってはどうか。

市長)

山下町の総合運動公園から櫛田川沿いに走るコースだが、今のコースでは3回開催した。その前は中部台から工業団地の折り返しであった。前から街中を走っていない。

委員)

ランナーから、今のコースでは盛り上がらないという意見を聞いたことがある。ランナーも市民も一体となるにはコース設定も大切である。

委員)

コースだけでなく、ネーミングも大切だと思う。松阪らしいネーミングをつけてはどうか。

委員)

松阪らしさを出すには、松坂城跡、日野町通り、御城番屋敷などが良いが、道が狭く、走るコースには適さない。松阪らしさを出せるところがコースには向いていない。

委員)

フルマラソンを開催するのは、どれぐらいの人数が必要か。

市長)

クリアしなければならないハードルは相当高いと感じている。今のハーフマラソンの規模では相当難しい。距離が倍になるが、同じコースを2回走るわけにはいかない。良いところでもあるが、市内には主要道路の結束点が多く、長時間通行止めにする事ができない。しかも、松阪らしいコースを走るという難題にチャレンジしているところである。

多くのボランティアが必要で、特に街中を走ると長時間、家から出れない人もでてくる。緊急車両の通行など、様々なケースに対応していく必要がある。一つひとつ検討しているところである。

委員)

高校駅伝でもかなりの時間を通行止めにしてはいる。

市長)

駅伝は繰り上げ出発があるが、それでも交通規制が難しい。フルマラソンになれば、走る人も多くなり走る距離も長くなるので、交通規制が大きな課題になる。

委員)

走る人の気持ちを聞くと、景色の良いコースを走りたいとか、参加賞の良い大会に参加する人が多い。

委員)

将来的には、世界選手権などの予選会に使われるようなコースにするのか。

市長)

選択しなければならないことだが、公認コースにするかしないかを決めなくてはならない。公認コースにするのには、ちゃんと距離を測定する必要もでてくる。国内選考会のコースに指定されるには、かなりハードルが高いようである。

委員)

いつごろを目途に始めたいのか。

市長)

明日にでも始めたいが、準備にはかなりの時間がかかる。コース、交通規制、スタッフなど、決めていくのに相当の時間が必要である。

47都道府県では3県がフルマラソンを開催していない。県内で初のフルマラソンを松阪で実現させたいと思っている。

委員)

他の祭りなどとセットでやるのか。開催時期はいつごろを考えているのか。

市長)

夏場の開催は考えていない。秋から春にかけての時期になると思うが、近隣のマラソン大会と重ならない日に開催しないと、前から開催している主催者に悪いし、参加者の取り合いになる。空いている日を探しての開催になると思う。

3. 市民大学について

市長)

では、次の事項に移ります。

続きまして、協議事項3の市民大学についてですが、公民館に移転が話題になっているが、中央公民館が移転するにあたって、昨年12月に公民館のあり方の答申をいただいた中で、中央公民館の役割についても意見をいただいている。中央公民館の自主事業として市民が受講できる講座をいくつか開催し、中央公民館としての役割を担っていきたい。

残念ながら、松阪市には高等教育機関がない。三重中京大学がなくなって8年が経つ。現在、図書館の改修を行っているが、蔵書も充実していきたいと思う。また、閉鎖されたが三重中京大学の図書館は健在で、膨大な蔵書や資料が残っており、活用できると考えている。

中央公民館が移転することで自主講座のスペースも広がるので、これから準備していかなければならない。どういったものを企画すれば良いか意見がほしい

委員)

松阪のいいところを市民に学んでほしいし、学びたいと思っている人も多いと思う。

人材バンクで講師を人選して、そこからピックアップして良い講座を開催してほしい。

委員)

長谷川邸の近くで月1回「うんちくゼミ」が開催されている。松阪の歴史や文化が学べる場であり、そういった講義を聞けたらと思う。

委員)

多種多様な講座が考えられるが、受講生の年齢層によってテーマを変えてはどうか。主催者側がどこをターゲットにするのか考える必要がある。若年層に対する講座は目新しくていいのではないか。

委員)

市民大学であれば、ターゲットをしぼらず、様々なテーマで幅広い年齢層から受講していただけるようにすればどうか。

委員)

航空機産業などはどうか。軌道に乗れば目玉になるのではないか。また、子どもを対象に夏休みに開催した「松阪を英語で」という講座は楽しそうであった。若い人向けにも開催できるのではないか。

市長)

行政の悪いところは、周知がヘタなところである。もう少しうまく情報を届ける方法はないか。

委員)

若い人は広報を読まない。会社や病院に置いてあれば読むのではないか。

委員)

若い人は、広報は読まないが雑誌は読んでいる。

市長)

アンケート調査では、市民のほとんどは広報から情報を得ているという結果であった。ただ、行政情報チャンネルはほとんど見られていない。普段から見てもらえる方法を考えないといけない。広報媒体を見てもらう努力が必要である。講座の周知でも、知ってもらおうと聞いてみたいと思ってもらえる。特に、若い人には定期的に講座に参加してもらえればと思っている。まずは周知方法だと思う。

では、その他の項について、事務局から何かありますか。

事務局)

次回開催について事務局よりお知らせします。

次回開催は未定ですが、緊急を要する案件が発生しましたら随時開催させていただきます。開催日程については、おって連絡させていただきます。よろしく願いいたします。

市長)

長時間にわたりありがとうございました。本日いただいたご意見を参考にさせていただきます。では、これにて平成29年度第1回松阪市総合教育会議を閉会させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

《16時50分 終了》